

災害時の避難先が自治体避難所から在宅避難に変わってきています。

南海トラフ大地震など、現在は大型災害の危機が迫ってきていることを行政がはつきりと語る時代になっていきます。防災マップなど、どの程度の災害で、どの辺りまで危険か、そのための危機回避は、個人の力量に委ねられる時代になっていきます。これまでは、災害が発生した際には、自治体などが設定する避難所に身を寄せるのが一般的でしたが、最近では、在宅避難が目立っています。

建築基準法の「最低等級」でも我が国の場合は、阪神淡路大震災クラスの震度6強・7では倒壊しない性能が求められていました。熊本大地震に際しても、震災直下でないかぎりには、耐震性能を満たす住宅の場合は、多くが倒壊などの被害を免れています。在宅避難を行う場合は、住まいが安全な場所にあることの確認が必要です。平時に自治体のハザードマップなどを確認して土砂災害や浸水の恐れがない

■省エネ性能に関する2つの基準

1 住まいの熱を快適にコントロールできること

①屋根・②外壁・③窓などの断熱の性能に関する基準。（外皮基準）

+

2 住まいのエネルギーを賢く使えること

①暖冷房・②換気・③給湯・④照明など住宅で使うエネルギー消費量基準に関する基準。（1次エネルギー消費量基準）

■省エネ住宅「健康・快適生活」の5つのメリット

夏は涼しく、冬は暖かい	温度、騒音、照度、衛生、安全、防犯に問題がない住環境の人々はQOL（生活の質）が高い。
ぐっすり寝られてすぐ起きられる	寝室がいつも寒く、乾燥していると感じている住宅では睡眠障害の疑いがある人が多い。
喘息などになりにくい	床近傍室温が16.1℃未満の住宅では、16.1℃以上の住宅に比べて喘息の子供が2倍になっている。
入浴事故リスク低減	居間や脱衣所の室温が18℃未満の住宅では、入浴事故リスクが高いとされる「熱め入浴（42℃以上）」がやく1.7倍に増加する。
掃除が楽になる	住宅全体の断熱性能が高くなると、結露が発生しにくくなるため、掃除が楽になる。

出典：国土交通省「家選びの基準がわかります」

●レジリエンス機能を高めるために考えたい住まいの設備

設備	特徴
創エネシステム	太陽光発電システムなど、創エネシステムを備えていれば停電時も電力を利用することができる。
蓄電システム	太陽光発電システムなどで発電した電力を蓄えておくことで、夜間にも電力の使用が可能になる。電気自動車を蓄電池に利用できるV2H（ビークル・ツー・ホーム）システムも登場している。
雨水タンク	雨水タンクを設置していれば、断水時の生活用水として使用可能。平常時も庭木などの水やりなどに使用すれば節水になる。
収納スペース	食品や日用品などを保存・保管するための収納スペースが確保できると、備蓄がしやすい。

出典：各ハウスメーカーのHPサイトから作成

さらに政府によって「省エネルギー性能」は引き上げられ、ZEHと同様に再生可能エネルギーを含む1次エネルギー消費量の削減率100%以上であるとともに、ZEH水準を大幅に上回る基準を採用した「GX（グリーン）トランスフォーメーション」志向型住宅」を設けています。GX志向型住宅は、省エネ等級6と、高い省エネ性能が要求され、現在の省エネ基準の4等級、ZEH水準5等級、の上の等級で、施工店にとってもハードルの高い「2050年の省エネ等級1基準」と言われています。松下孝建設では、現在の通常施工で等級6に近い施工を行なっていますので、性能的には「GX志向型住宅」で求められる要件に、多少のプラスで施工が可能です。1戸あたり160万円の補助金を受け取れますので、これから新築される方は、是非「GX志向型住宅」についてのご説明もご要望ください。

省エネ性能は、5年後の性能アップを見越してZEH水準、等級5以上で建ててください。

災害に遭遇しても、レジリエンス性（しなやかに復旧する）の高い、高性能住宅を建ててください。

新・省エネ基準開始後3ヶ月の現状！

発行所 株式会社 松下孝建設
発行人 松下 拓也
編集責任 齋藤 恭誠
■本社
〒891-0108
鹿児島市中山1丁目14-29
TEL 099-267-7594
FAX 0120-079-089

災害に強い住宅はおのずと資産価値の高い住宅になっている。

耐震性能や耐火性能は重要な要素ですが、住宅の強度は、機械力や設備によっても守られる部分よりも、住宅そのものが持つ

ているポテンシャル（潜在的な力）が重要です。その一つが住宅の「省エネ基準」で、省エネ基準には、主に2つの要素があります。一つは「外皮基準」と言われる、屋根・外壁・窓などの断熱性能に関する基準です。二つ目は、一次エネルギー消費量基準で、住宅で使用するエネルギー消費量に関する基準です。「省エネルギー基準」は住宅性能において、多くのことを語ります。省エネルギー基準の等級は、等級1〜7まであります。断熱素材が施工されていない寺院などの建物は等級1とし、現在は、等級4が義務化基準になっています。この基準は本年4月までは、我が国の最高等級でしたが、現在では守るべき最低等級になっています。これは、世界的な「省エネ基準」と比較した場合、あまりにも性能

省エネ住宅の補助金制度「子育てグリーン住宅支援事業」は、

鹿児島和楽モデルハウス グランドオープン!!

和楽 WARAKU

新たな工夫の和楽モデルが鹿児島市中山に完成！

松下孝建設は、今まで様々な工法開発を行ってきました。北欧・ヨーロッパの「パッシブ・ハウス」を基本として、南九州型の快適環境を造るために、断熱・気密・遮熱工法を開発しました。さらに、循環空調システムで、全館1台のエアコンで生活できる住宅を完成させ、ビルトイン空気清浄機を組み込むことで、感染症時代のシェルター機能を住宅に求めた画期的な「空気清浄仕様住宅」を完成させました。今回の展示場は、車庫の上に居室を設け、本来の2階建てよりもスロープの緩やかな階段の老後対策にも通じる仕様など、松下孝建設の全ての成果を、この鹿児島市中山の「和楽」展示場で公開していますので、新築をお考えの場合は、是非、ご家族の皆様でご来場ください。

鹿屋モデルハウス 好評公開中!!

和楽 WARAKU

松下式「循環空調システム」モデルハウスが鹿屋市に完成！

松下孝建設が開発し、多くのお施主様に指示されてきた松下式「循環空調システム」のモデルハウスが鹿屋市に完成いたしました。このシステムは、エアコン1台で暖冷房が可能のほか、TV広告の「エアードック」と同等システムが空気清浄機としてビルトイン搭載されており、室内空気が循環すればするほど清浄化するという優れた「循環空調・空気清浄」システムです。是非、ご家族の皆様と共に鹿児島県の住宅の進化と共に、最新の住宅工法の快適性を体感してください。

川内モデルハウス 近日見学終了

和楽 WARAKU

（見学終了まで残りわずか!!）

平屋住宅でありながら「スキップフロア」など、他では見かけることが出来ない印象的なデザイン性の展示場が完成しました。「川内モデルハウス」は「鹿屋モデルハウス」同様に、松下孝建設が開発した「循環空調システム」を搭載した、空気質の綺麗な快適な住宅ですから、ご家族揃いでお気軽にご体感ください。